

# みどり

第229号

平成24年1月20日  
葛井中央安全衛生委員会  
葛井総合災害防止協議会

## 『年頭ご挨拶』

葛井株式会社 代表取締役社長 熊田光男

新年あけましておめでとうございます。

協力業者の皆様におかれましては、旧年中、弊社の安全管理について、多大なるご協力をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。

さて、昨年は、東日本大震災や台風被害など、大自然の力の中で、人間がいかに無力かを思い知らされる年でした。大きな悲しみの中で、一縷の光があったとするならば、昨年の漢字に選ばれたように、この国が忘れていた「絆」の大切さを再確認できたことではなかったかと思えます。

2012年を展望すると、経済面を見れば、震災を機に大幅に落ち込んだサービス産業は、極端にマインドが悪化した局面からは脱しつつあるものの、力強さに欠ける状態であり、当地域の主力である自動車産業も、長引く円高や国内の自動車離れにより回復の勢いは見られないのが現状です。

公共事業におきましては、復興の予算化が進むことにより、4月～6月期以降に、大幅に伸びると思われるものの、材料や素材の高騰が懸念され、復興地域以外には、収益に対する負荷がかかると想定されます。

昨年に続き、大変厳しい時代が続くと想定されますが、わが社としては、『「執念」があるものは可能性から発想する』との理念から、『考えて考えて考え貫（ぬ）く』という行動方針を立て、あらゆる可能性にチャレンジする所存でございます。

安全管理におきましては、度重なる事故を根底から見つめ直し「TSUTAIの技」と銘打って、細部にわたる作業をビジュアル化し、誰にでもわかる安全基準を作成すべく、関係者との協議を進めております。

2012年も、皆様のご支援をいただきながら、社会に貢献する企業として「TSUTAI」ブランドを構築してまいりたいと存じますので、何卒ご協力の程よろしくお願い申し上げます、新年の挨拶とさせていただきます。

ご安全に。

TSUTAI

我々は歩む全ての人々に求められる

以上の安心と快適を提供し続ける

2

## 『安全に想定外なし』

葛井総合災害防止協議会会長（株）ベスト・オブ・ボーイズ 代表取締役 多田 博剛

平成24年、明けましておめでとうございます。昨年、新社屋と共に熊田新会長・熊田新社長と一新をされた葛井株式会社様にお祝いを申し上げますと共に、総ての協力会社の皆様におかれましては「安全第一」を年頭に心を引き締め総力を挙げて、ご協力を宜しくお願い申し上げます。平成22年の夏は近年最高の猛暑になり、冬は氷点下を示す酷寒が続き、やっと春を迎えた矢先の3月11日午後2時47分、生涯忘れることのない東日本大震災が起きました。テレビで目を疑うほどの映像が流れ、その直後の巨大津波で多くの地域があつという間に全て流されてしまいました。世界中の人々がこの世の出来事とは信じ難く、なすすべもなく見入るだけでその後にまざまざと本当の怖さを知るのですが言葉も失うほどのショックは数ヶ月も続きました。

戦争や犯罪等であれば相手を「恨む」という行為で自分を慰める事ができるかもしれません。しかし自然界の出来事は誰も手の下しようがなく、世界大恐慌や世界大戦時などに必ず“天変地異”が起こると言われています。地球上の総ての動向は回帰すると、古代からの歴史が明らかにしています。ところが今回の大震災で地球上の常識を超えた原発事故が起きてしまったのです。

原子力を発明したアインシュタインは、これを利用すれば世界のエネルギーは飛躍的に拡大するが、その反面、多大の弊害も生じると警鐘を鳴らしていたのです。人間は、起こってしまったから必ず総力を上げて想定外の安全性を追求しますが、責任大国でもある日本は、世界一の物理・化学・技術力を持って事故の収束と未来のエネルギー開発の両面にまっしぐらに突き進んでいくのは義務でもあるのです。しかし、急ぎ過ぎると「安全」を見落としてしまうのが人間なのです。

昨年9月末に岐阜市のとある喫茶店に入り食事をしていたところ、突然一人の年配の男性が私に話しかけてきたのです。男性は、「人間のやることは自然の生業に合わせた範囲内でとどめておかないといかん」、「人間の分かる範囲は知れとる。震災があつてそれを“想定外”ではいかにも情けない。上に立つ人間はそういう言葉を出してはいかん。しっかり勉強しとらん・しっかり見とらんだけの事だ」とおっしゃいました。そんな話の合間に窓越しに庭に目をやると、約30羽の鶺鴒が私たちを見ているのです。そして店から出る時に、その男性が全国でも二家系しかない宮内庁式部職鶺鴒匠の代表・山下純司氏と分かりました。彼は鶺鴒匠の家に生まれ、鶺鴒とともに暮らし、鶺鴒は約30年生きるので、鶺鴒は自分の先生だと言ってみえました。庭には柵がなくても一羽も逃げないそうです。最後に山下氏は「仕事をする鶺鴒はきちんとするし、しない鶺鴒もおる。皆一緒に暮らすことに意味がある。鶺鴒は死ぬまで人に従うということはあらへん。ここの人間とか他の鶺鴒のやっとなことをだんだんと覚えてもらうだけ。ただ、年寄りを敬うという気持ちは間違いなくある」と教えて下さいました。

どういふご縁なのかはわかりませんが、この日の不思議な体験の中でほんの少し理解出来た事は、私たちの日常の作業の中で常に仲間を尊び、無理なく焦らずきちんと仕事を覚え、自然に逆らわず、共同体で仕事をこなし、社会だけでなく家族も同じパートナーシップをしっかりと心掛けていく事が私たちの安全第一につながる心得ではないかということです。

常に自然に生かされ自然に教えられた事により、「安全に想定外なし」と毎日の作業に心して頂き、この一年、皆様の健康と仕事の安全を祈念いたしまして、今年も宜しく申し上げます。